

06. 動詞の現在人称変化 (1)

1. 動詞のかたち

ドイツ語では動詞の原形を不定詞(あるいは不定形)といい、-en(少数の動詞は -n)という語尾をもっているのが特徴です。そしてこの語尾を取った部分を語幹といいます。

lernen 「学ぶ」	lern- が語幹	-en が語尾
wandern 「歩き回る」	wander- が語幹	-n が語尾

かつては英語も動詞の原形はドイツ語と同様の語尾をもっていましたが、今はこの -en や -n をないかたちをもちいています。

learn 「学ぶ」	wander 「歩き回る」
------------	---------------

しかし英語では現在でも少数のものにそのなごりがみられます。

happen 「起こる」	listen 「聞く」
--------------	-------------

さらに英語は今でも一部の名詞や形容詞などに -en をつけて動詞を作ることができます。

heart 「ころ、元気」	hearten 「元気づける」
fast 「締まっている」	fasten 「締める」
light 「明るい」	lighten 「明るくする」

2. 動詞の現在人称変化

動詞に主語がついて人称変化した形を定動詞(あるいは定形)といいます。動詞を現在人称変化させるには語幹に主語に応じた語尾をつけますが、この語尾のことを人称語尾といいます。

不定詞 lernen 「学ぶ」

		単数 (sg. = Singular)	複数 (pl. = Plural)
	1人称	私は ich lerne	私達は wir lernen
(親称)	2人称	君は du lernst	君達は ihr lernt
	3人称	彼は er 彼女は sie lernt それは es	彼らは sie lernen
(敬称)	2人称	あなた(達)は Sie lernen	

複数1人称と複数3人称、敬称2人称の定動詞のかたちは常に不定詞と同じかたちになりますから注意してください。

英語の3人称単数現在で動詞に -s がつくのは人称変化のなごりです。単数1人称 ich は英語の I と違って文の先頭(文頭)以外ではかならず小文字で書かれることに注意しましょう。また2人称の du と ihr は昔の英語の単数2人称 thou[ザウ]と複数2人称 ye[イー]に相当し、この2人称には動詞にそ

れぞれ *-st* と *-t* をつけていたのです。現在の英語ではこの2人称は「汝(ら)」という荘重な言い回しのときにもちいています。

3. 親称と敬称

ドイツ語には日本語と同様に敬語があります。目上や初対面の人に対しては複数3人称の「彼ら」を常に頭文字を大文字にした *Sie*「あなた(達)」を単数複数とももちいる敬称と、それ以外の親しい間柄の人に対しては単数の *du*「君」複数の *ihr*「君達」をもちいる親称があります。

親称は親子、夫婦、兄弟、親友、同じ学校や職場の仲間、恋人などの親しい間柄や、15歳以下の子どもに対してもちいられます。子どもは15歳でキリスト教の *Konfirmation*「堅信礼」という儀式を終えると一人前と認められ、それ以後は社会的には *Sie* で呼ばれることとなります。

このようにドイツ語ではきちんと親称と敬称の使い分けが決まっているため、*du* と *ihr* は必ず「君(達)、おまえ(達)」と訳し、*Sie* は常に「あなた(達)」と訳す必要があります。

単数3人称「彼女」の *sie* と複数3人称「彼ら」の *Sie* は同じ形ですから、その区別は動詞の語尾によらなくてはなりません。さらに敬称の *Sie* は頭文字が常に大文字ですが、文の先頭にあるときには複数3人称なのか、あるいは敬称なのかはその前後の文章から判断することとなります。

4. 英語とドイツ語の動詞の相違

現在の英語の動詞はドイツ語の動詞と異なって一定のかたちをしていないために、名詞と同形のものが多く、これは英語の簡単な点です。

	動詞	名詞		動詞	名詞
<i>work</i>	「働く」	「労働」	<i>thank</i>	「感謝する」	「感謝」
<i>help</i>	「助ける」	「援助」	<i>cook</i>	「料理する」	「料理人」

しかし英語は現在人称変化で単数3人称現在以外は人称語尾がないため、文中では動詞なのか名詞なのかわかりにくいことがあります。

No, (I) thank you.

この場合の *thank* は動詞

many thanks to you

この場合の *thank* は名詞

Please help me.

この場合の *help* は動詞

I need your help.

この場合の *help* は名詞

ドイツ語では、動詞は現在人称変化で複雑な人称変化をするために大変面倒なのですが、逆に人称語尾があるために動詞の主語を取り違えたり、名詞と間違えたりすることはない点が英語に比べて有利だといえます。

5. 疑問文と否定文

ドイツ語の疑問文は英語の *be* 動詞の場合と同じようにどんな動詞でも主語と動詞を逆にして、文末に疑問符 [?] (*Fragezeichen, question mark*) をおくだけで作ることが出来ます。また否定文も英語の *not* に相当する *nicht* という副詞を原則として文章の末尾におけばいいのですが、詳しくは後述します。

また肯定文と否定文には英語の *yes* と *no* にそれぞれ相当する *ja* と *nein* という間投詞を文の先頭におきます。